



ふくおか【Good👍】農業人100

主な農産物／緑花木(アジサイ類他)

榎崎 周作さん (32歳) (営農地／久留米市田主丸町)

敷かれたレールも走ってみたら楽しかった

《就農のきっかけ》

何の抵抗なく親元で就農

高校進学時から、なんとなく親の経営を継ぐのかなと思っていた榎崎さん。筑水高校の生物工学科に進学し、卒業後は九州沖縄農研センターの花きコースで花全般についての知識を習得しました。

その後、何の抵抗もなく親元で就農する道を選びました。「こう言う人からは『子供の頃から親に後を継ぐように言われてたんじゃないか』という人もいますが、うちの両親は就農については何も言わず、学生時代は相当自由にさせてくれました。

その当時の自分を傍からみたら、親の敷いたレールにそのまま乗っただけに見えたかもしれませんね。」気さくに語ってくれました。

《これまでの過程》

生涯日々之勉強

九州沖縄農研センターを卒業と同時に就農したわけですが、当初は学校で学んだことと実際の農業経営のギャップに苦しんだそうです。緑花木は扱う品目数も非常に多い上、1つ1つ栽培特性も違うため、2年近くは父親に怒鳴られっぱなしの毎日。「親からしてみたら経営のレールに乗っただけで真剣味が足りないように見えていたのかもしれない。」と榎崎さん。

ようやく、自分の技術に自信が持てた頃、人生に転機が訪れます。結婚して家庭を持ちました。25歳の時です。2人の子供にも恵まれ、守るものができてから、自分の経営に対する姿勢も変わったように感じた。と言います。

それから、販路や栽培品種について、今のままで良いのか真剣に考えるようになり、色々と思いつも悩むことは苦しいこともあったそうですが、このころからだんだん農業経営が面白く感じるようになったそうです。「親の敷いたレールでも全力で走ってみたら途中に分岐や障害物があって以外と楽しかったってところです。」と笑顔で語ってくれました。



プロフィール

■家族構成／父、母、妻、子ども2人 ■営農年数／約12年
■従業員数／7名 ■耕作(経営)面積／3.0ha
■販路／植木市場、仲買業者

《これからの展望》

時代のニーズに応じた商品づくり

今までの緑花木経営は、公共事業のニーズに影響されることが多かったのですが、最近は、花市場や量販店への出荷が増えてきています。おのずと求められる商品も変わってくるので、今後は時代のニーズに併せた商品づくりにシフトしていきたいと考えています。

具体的には同じものを大量に作るのではなく、多品目の少量生産で値崩れを防ぐとともに、それに応じて複雑化する栽培管理をパートさんを使ってうまくやっていけるようにしていきたいですね。



Good👍 成功のためのポイント

自分の考える成功のためのポイントは「親や先輩の言うことは、聞いた方が良い」というものです。人によっては何でも一度、自分でやって失敗してみないと本物ではないと考える人もいますが・・・親や先輩は自身の経験を元に自分が余計な失敗をしなくてもいいように助言してくれていると思っています。それがたとえ怒られながらであっても人の助言はありがたいと思っていますし、それを聞く耳をもつことが大切だと思います。